

# 経営体育成基盤整備事業



区画整理（東近江市）

農地の大区画化や汎用化（水田の畑地利用）、末端水路等の更新整備を行うことで、高い生産効率、高収益作物の導入・生産拡大等を可能とする農業基盤を整えます。さらに、農地中間管理機構と連携を図りながら、将来の農業生産を担う経営体（担い手）への農地の利用集積・集約化を推進し、大規模で安定した農業経営の実現を図ります。

## 農地の区画整理



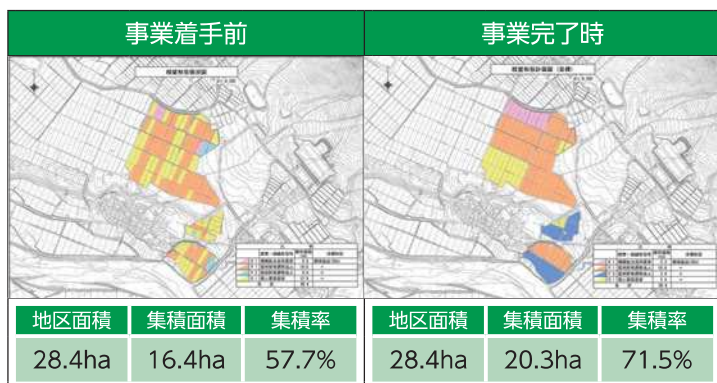
事業実施前（湖南省）



事業実施後（湖南省）

## 農地の集積

農地を所有、または借りること等により、担い手が利用する農地面積を拡大することを利用集積（集積）と呼んでいます。



経営形態	担い手区分
個人営農農家	—
規模拡大志向農家	担い手
農地所有適格法人	担い手
農地所有適格法人	担い手

## 農地の集約

同一の担い手による経営面積が1ha以上のまとまりを有しているものを集約化と呼んでいます。

## 事例紹介 小脇地区（東近江市）

小脇地区は、「勝利と幸福を授ける神様」として信仰される阿賀神社（太郎坊宮）の麓に広がる平坦な水田地帯です。地区内の農地は未整備の不整形田、狭小な農道、また用排水兼用水路であったため水利条件が悪く、営農に多大な労力を費やしており、早期の基盤整備が望まれていました。

このため本事業で、**農地の大区画化、道路、用排水路の整備を実施しています**。そして、事業を契機に設立した農業法人を中心に地域を活性化させ、太郎坊天狗ねぎ等の収益性の高い作物の生産拡大による経営の多角化と、大型機械の導入や水管理の省力化により生産コストの低減により「**儲かる農業**」への転換に取り組んでいます。

事業名／県営経営体育成基盤整備事業  
 実施年度／平成29年度～令和8年度  
 総事業費／1,726,000千円  
 （ソフトを除く）  
 受益面積／53.2ha  
 事業内容／農業生産基盤整備  
 ・整地工 53.2ha  
 ・道路工 6.9km  
 ・用水路工 15.2km  
 ・排水路工 8.6km  
 ・暗渠排水工 12.7ha  
 実施主体／東近江農業農村振興事務所



未整備の農地



大区画に整備された農地



整備後の営農状況



収穫前の太郎坊天狗ねぎ

## 農地耕作条件改善事業

地域計画を策定した区域において、農地中間管理機構と連携し、担い手への農地の利用集積を図るため、畦畔除去による簡易な区画拡大、汎用化のための暗渠排水、用水路の整備など、地域の実情に応じたきめ細やかな基盤整備を実施します。

### 事業を契機にした高収益作物への転換

基盤整備を機動的に進めるとともに、輪作体系の検討や導入1年目の種子・肥料への支援など、高収益作物への転換に向けた計画策定から営農定着に必要な取組をハードとソフトを組み合わせ支援します。



畦畔除去による区画拡大



暗渠排水による汎用化



キャベツ（高収益作物）の収穫（東近江市）



### スマート農業導入

基盤整備と一体的にGNSS（衛星測位システム）基地局の設置等、スマート農業の導入について支援します。



GNSS基地局設置



自動給水栓の導入